

君は、どの町に「牧場」をつくる？ ～北海道の人々の生活～

東神楽町立東神楽小学校 小田島 充彦

1 はじめに

3・4年生で自分たちの住む地域について学んできた子どもたちが5年生で出会う『他地域の人々の営み』についての学習。その中でも北海道地方の学習は広大な土地と寒い気候に適応した特色ある人々の暮らしを学ぶことができるとともに、国土の広がりを感じることができます。

遠い土地の暮らしのようすを学ぶために一番使いやすいのは地図帳。その活用方法の一つとして本実践を考えました。

2 酪農を通して北国の暮らしに目を向ける

子どもたちは北海道に対して、「広い」「雪が多い」などのイメージはできるものの、具体的に知っていることは少ないと考えます。そんな中、子どもの身近な生活の中にも北海道を感じられる物があると考えました。それはバターやチーズなど乳製品のパッケージです。これには北海道がデザインされていたり「十勝」という地方名も入っていたりします。

『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』（以下、地図帳）p.73「おもな農作物の生産」で牛乳の生産量を確認させると、北海道が1位であることがわかります。ここから北海道は「酪農がさかんな地域」であることを理解させることができます。

そこで本提言では、子どもたちに「北海道の土地や気候の特色を生かした暮らし」に目を向けさせる視点として、「もし北海道で酪農業を営むとしたらどこに牧場をつくるか？」ということをシミュレーションさせてみます。まず、寒い地域では、人々がどのように自然環境に対応した暮らし



牛の標識（牧場が多い地域の道路によくある）



砂箱（滑りやすい個所にまく無料の砂袋が入っている）

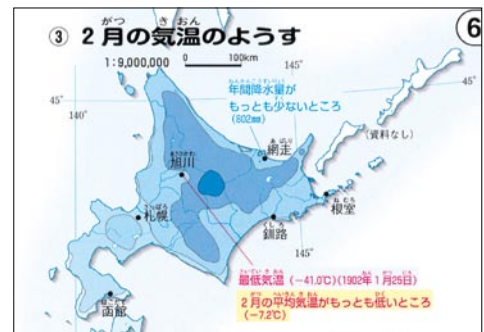


スパイクつき冬靴（転倒防止のため）



水道凍結防止栓（水道管の水を抜き凍結を防ぐ）

をしているのかイメージしやすくさせるために、写真を何枚か用意します。北海道の人々がそれらを「何のために」「どのように」使っているのかをクイズにして考えさせます。その際、地図帳p.66の資料を手がかりに気温や積雪の関連から考えさせたり話し合わせたりするとよいでしょう。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.66

加えて、冬以外の暮らしのようすについても補足説明することで自分の住む地域との違いを実感することができると思います（「桜が咲くのは5月ごろ」であることや、「屋外のプールを使えるのはお盆ごろまで」、「運動会は6月」など）。

3 さて、どの町に牧場をつくらうか？

「暮らしのくふう」をつかんだあとは、いよいよ牧場をどの町につくるか？について考えさせます。おそらく、札幌や函館、稚内や釧路など、全国的に知

られている都市の名前が挙げられると考えます。また、製品の名前から「十勝」と地方名を答える子もいるかもしれません。また、「広い」「平ら」など土地の特徴を考えて場所を選ぶ子もいることでしょう。

そのあとで地図帳のp.47~50を使って、牛のマークがついている地域を探し、印をつける作業を行います。すると、実際に酪農を行っているのは根釧台地や十勝平野、道北の宗谷地方など限られた土地であることがわかります。自分が住みたいと思っていた町と違う子もいることでしょう。

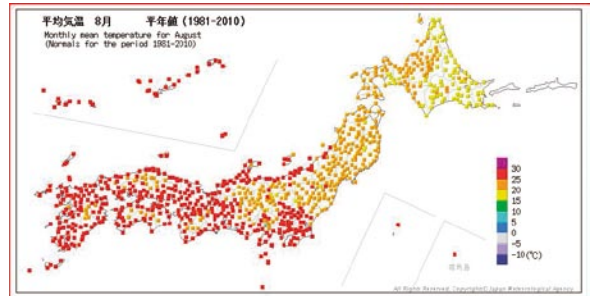
ここで「広い北海道で限られた部分でしか酪農業が行われていないのはどうしてだろう」と投げかけます。土地のようすに着目させて考えさせますが、難しい場合はp.65の地形のようすを用いると、酪農の行われている場所は平らな部分であることに気づかせることができます。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.65

5 酪農業に必要な条件は？

その理由に気づかせる手立てとして、気象庁が公開している過去の平均気温の地図を提示します。



『平年値分布図 平均気温 8月』（気象庁HPより）

8月の平年値をみると、酪農の行われている地域と石狩平野の気温の違いがわかります。この事実から子どもたちは「北海道の酪農業は広く平らで夏でも気温の低い地方で行われている」という事実を理解することができます。

6 おわりに

北海道で酪農業が行われている地方は夏でも冷涼な気候のため、稲作を行うことができません。そのため、寒さに強い乳牛を育てる仕事が必然的に発達してきた土地なのです。酪農に限らず、広い北海道では地域によって自然環境が大きく異なるため、人々はその土地や気候に適した産業を営み生活してきました。北海道以外で酪農が営まれているのも、冷涼な土地のところや耕作に適さない高地がほとんどです。

今回は北海道以外の子どもたちを想定して地図帳の活用を考えましたが、意外と北海道の子どもたちも自分の住む所から離れた地域の実態には詳しくありません。今回は酪農に絞っての提言ですが、地図帳にちりばめられたたくさんの情報をしっかり読み取る「目」を育てることで、より社会のようすがわかり、楽しく社会科に取り組む子どもたちを育てていきたいと感じています。

4 平らなのに？

この学習を通すことで「広い」というイメージのある北海道が実は山の多い地域であることを理解させることができます。その後、地図帳に再び目を向けさせ、「平らな部分なのに酪農業が行われていない部分を探してごらん」と促します。その場所は石狩平野です。

地図帳で土地利用のようすを見るとほとんどが「水田」となっており、酪農業は行われていません。この事実から「平ら」という条件だけでは酪農業には適していないことがわかります。